

バージョンアップガイド

[2026の新機能]

2026 年 7 月リリース版

目次

GLOOBE 2026 Construction の新機能 2026年7月リリース版

連携強化	3	施工詳細	15
外部参照改良	3	Revit読み込みでの仕上仕様対応	15
BuddyBoard連携	4	折板・瓦棒屋根割付の改良	15
		天井割付の改良	16
パフォーマンスアップ	5	仮設工事	17
部品稜線の削減	5	層間ネットの追加	17
立面・断面系図面の作図効率化	5	防音パネルの追加	17
		くさび受け参照入力への対応	18
躯体工事	6	単管の単独入力	20
鉄筋取り込み	6	壁つなぎの単管配置	21
鉄骨柱脚モデルの強化	7	足場マスタの拡張	22
躯体強化（フカシ）	8	作図表現への対応	23
立上り打設への対応	8		
異形断面への対応	9	土工事	24
梁リスト改良	9	土工事用地盤の精度向上	24
躯体寸法のタイプ拡充	10	山留壁・山留支保工のFL基準入力対応	24
躯体図記号表現の強化	10	埋め戻し更新への対応	25
スリーブ記号	11		
基準芯の切り替え	11	工程計画	26
Revit読み込みでの杭表現改良	12	工区タイプの拡張	26
デッキスラブ割付	13	コンクリート打設工区グループ化	27
		コンクリート打設工区打設モデル確認	28
杭・基礎工事	14		
杭リストへの対応	14		
杭の立体形状改良	14		

連携強化

外部参照改良

IFC・ST-Bridge・Revit ファイルをそのまま参照可能になりました。取り込み階も設定可能になりました。

GLOOBE

ホーム

躯体工事

杭・基礎

加筆専用ツール

専用ツール

躯体工事

プロジェクト

階設定

図面エクスプローラー

外部参照

J-BIM

ワークフロー

プロジェクト

外部参照 (全棟)

参照モデル取り込み

整理

新しいフォルダー

Desktop

更新日時

2026/06/18 10:32

2026/01/07 17:43

2026/06/18 10:32

モデルデータ (*.GLM)

モデルデータ (*.GLM)

IFCファイル (*.ifc)

ST-Bridgeファイル (*.stb;.xml)

Revitファイル (*.rvt)

Model data click

IFC・ST-Bridge Revit ファイルを直接指定可能に

NEW

Revit読み込み

カテゴリ1

カテゴリ2

パラメータ

Color3D地

初期値セット

初期値取り込み

柱

☐ 意匠柱

☒ 構造柱

壁

☒ 意匠壁

☒ 構造壁

ガラス屋根

☐ 任意形状で表現する

☒ 3Dビュープロパティを考慮する

☒ 階構成を確認する

OK

キャンセル

取り込み階を設定可能に

階

R階

☒ 最上階をR階にする

☐ R階を追加する

最上階高さ

0.00 mm

設計GL

0.00 mm

地下ピット

0

階

種別

レベル(mm)

読み込み階

レベル 2

R階

4000.00

レベル 2

レベル 1

地上階

0.00

レベル 1

T.O. 基礎壁

地上階

-300.00

T.O. 基礎壁

T.O. スラブ

地上階

-4000.00

T.O. スラブ

T.O. 基礎

地上階

-4300.00

T.O. 基礎

B.O. 基礎

1階

-4600.00

B.O. 基礎

【外部参照で Revit ファイルを読み込んだ場合】

IFCインポート

種別

階

梁・柱

壁

スラブ

階段

ドア・窓

設備

☐ 敷地関連

☒ Default Group

☒ R

☒ IfcBeam : (16)

☒ IfcSlab : (8)

☒ IfcMember : (4)

☒ IfcWall : (4)

☒ 4F

☒ IfcColumn : (9)

☒ IfcBeam : (17)

☒ IfcSlab : (8)

☒ 3F

☒ IfcColumn : (6)

取り込み階を設定可能に

IFCインポート

種別

階

梁・柱

壁

スラブ

階段

ドア・窓

設備

建物グループ

Default Group

R階

☒ 正常

☐ 最上階をR階にする

☐ R階を追加する

最上階高さ

0.00 mm

1FL = 設計GL±

190.00 mm

階

種別

レベル(mm)

読み込み階

R

R階

14400.00

R

4F

地上階

10800.00

4F

3F

地上階

7200.00

3F

2F

地上階

3600.00

2F

1F

1階

0.00

1F

【外部参照で IFC ファイルを読み込んだ場合】

また、Revit 読み込み、IFC 読み込み、ST-Bridge 読み込み時に、外部参照データとしての読み込みに対応しました。実運用に即した参照モデルの統合が可能になります。

GLOOBE

ホーム

躯体・屋根

内外装・建具

加筆専用ツール

専用ツール

新規作成(N)

開く(O)

Ctrl+O

上書き保存(S)

Ctrl+S

名前を付けて保存(A)

印刷(P)

インポート

エクスポート

ダイレクト連携

Revit読み込み

現場ナビ3D鉄筋読み込み

モデル圧縮ファイル

PLATEAU連携

CityGML読み込み

Revit読み込み

☐ 新規プロジェクトとして読み込む

☐ 既存プロジェクトに別の建物として読み込む

☐ 既存プロジェクトに同じ建物として読み込む

☒ 既存プロジェクトに外部参照として読み込む

基準点を指定する

OK

キャンセル

GLOOBE

ホーム

躯体・屋根

内外装・建具

加筆専用ツール

専用ツール

CAD編集

選択・表示

施工詳細

プロジェクト

階設定

図面エクスプローラー

外部参照

J-BIM

GLOOBE

IFC

STB

IFC

STB

座標点

点群

ワークフロー

取り込み

ワークフロー

プロジェクト

モデル読み込み

BIM連携

IFC読み込み

☐ 新規プロジェクトとして読み込む

☐ 既存プロジェクトに別の建物として読み込む

☐ 既存プロジェクトに同じ建物として読み込む

☒ 既存プロジェクトに外部参照として読み込む

基準点を指定する

OK

キャンセル

BuddyBoard 連携

図面作成ステージの用紙出力画面から、用紙を図面ナレッジプラットフォーム"BuddyBoard"にアップロードできるようになりました。GLOOBE で作成した図面を、BuddyBoard 上で共有できます。



【図面作成・シート】



BuddyBoard へ
シームレスに連携可能に

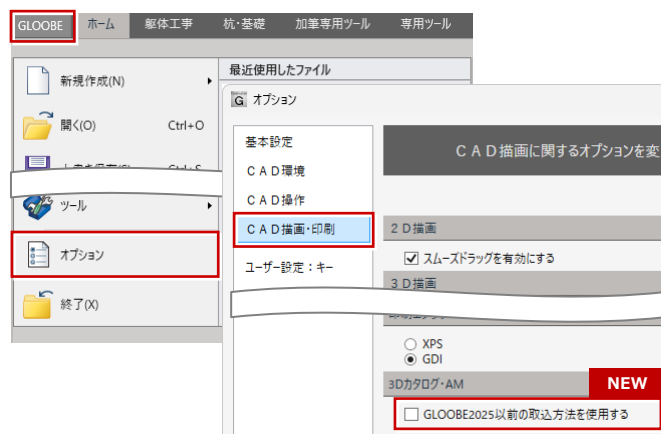


※『BuddyBoard』は株式会社 BuddyBoard の登録商標です。

パフォーマンスアップ

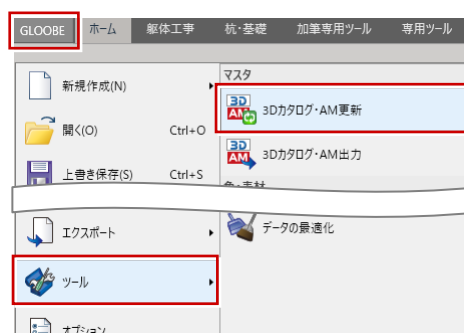
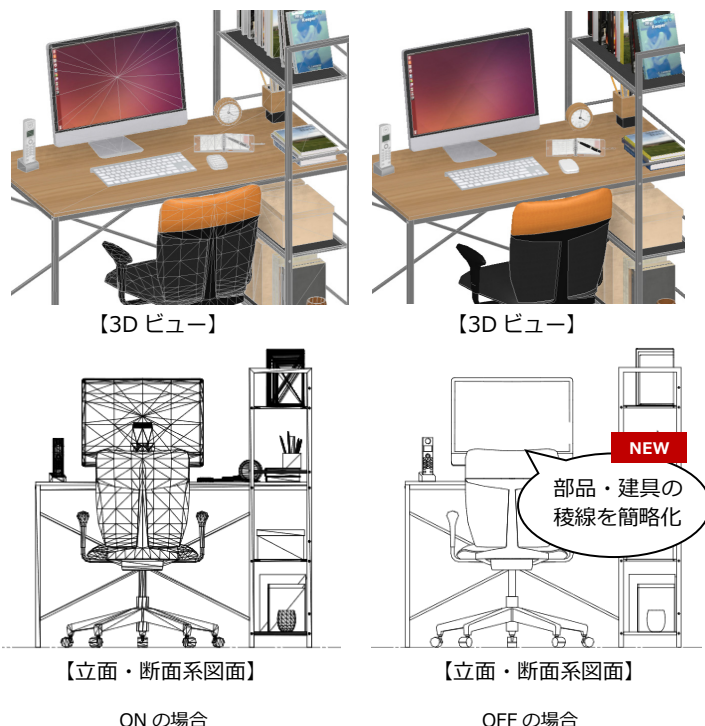
部品稜線の削減

特定のメーカーコンテンツにおいて、不要な部品稜線を省略しました。立体を見やすくするとともに、図面作成にかかる時間を削減しました。よりスムーズに図面作成が可能です。



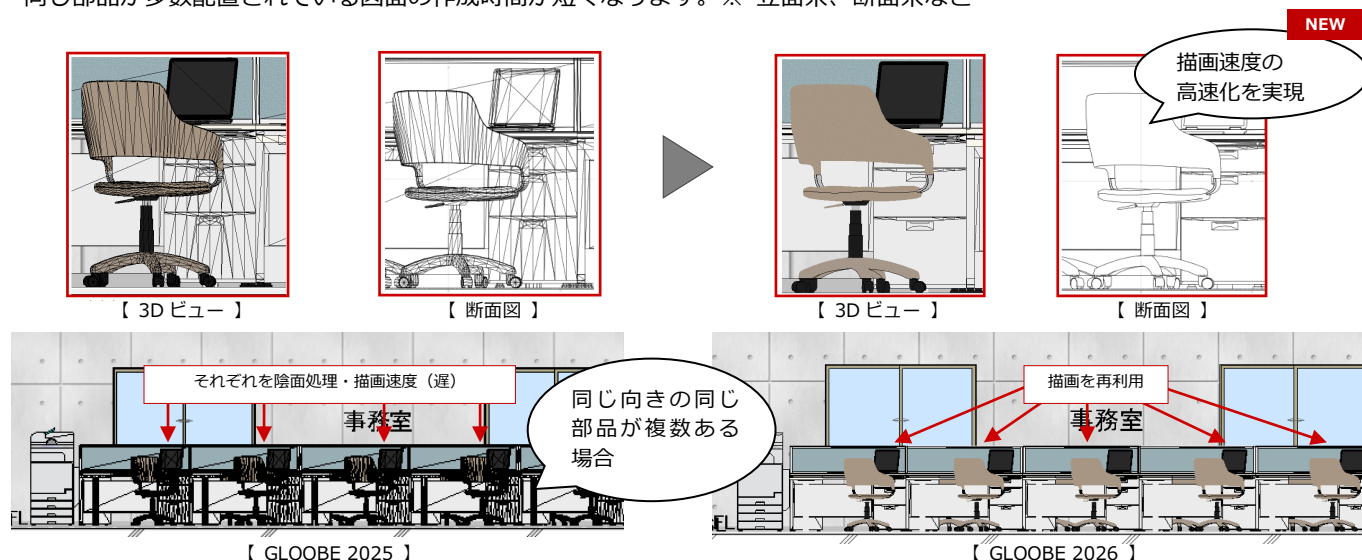
※OFF での利用を推奨

GLOOBE2025 以前に作成したデータに反映させるには「GLOOBE2025 以前の取込方法を使用する」チェックが OFF になっていることを確認し、「ツール」－「3D カタログ・AM 更新」コマンドを実行して更新してください。



立面・断面系図面の作図効率化

同じ部品が同じ向きで配置されている場合、描画結果を再利用することで、描画を効率化しました。同じ部品が多数配置されている図面の作成時間が短くなります。※ 立面系、断面系など



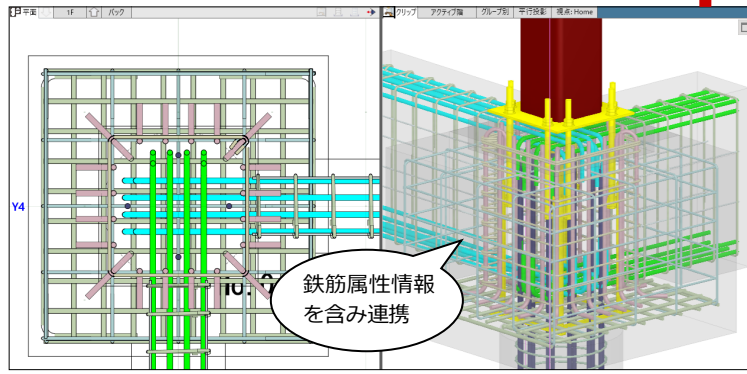
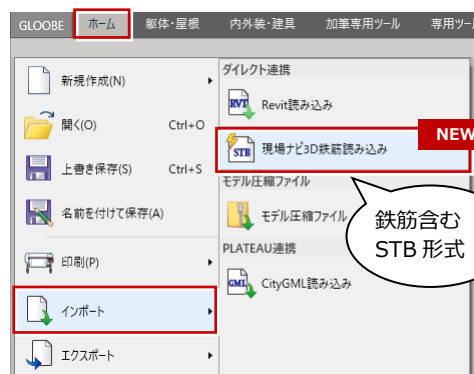
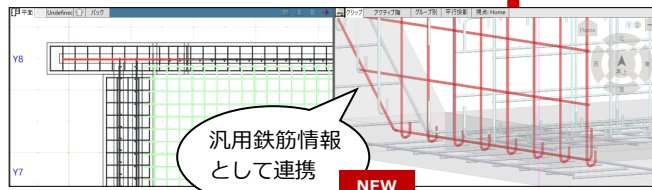
躯体工事

鉄筋取り込み

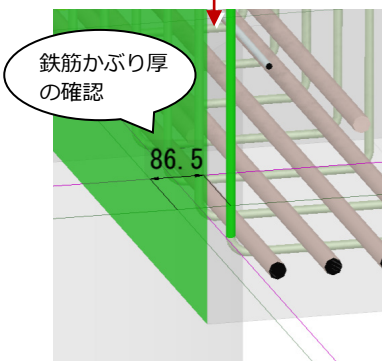
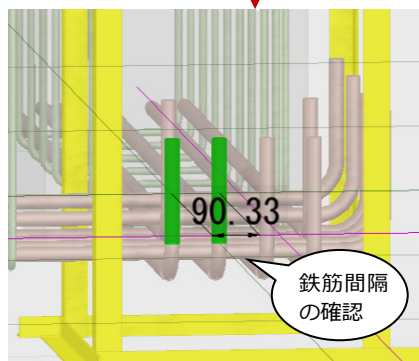
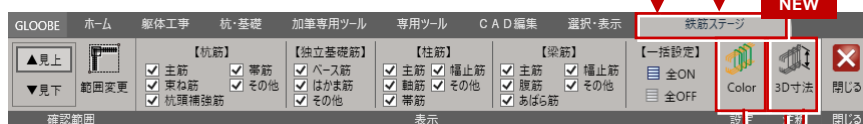
現場ナビ 3D 鉄筋から出力された STB ファイルや、IFC ファイルから鉄筋データを読み込み、GLOOBE 上で表示・集計します。ワークフロー「杭・基礎工事」「躯体工事」では GLOOBE 上で柱脚アンカーフレームと鉄筋の干渉チェックができ現場に即した施工モデルを実現します。また、WebViewer で立体を現場に共有することも可能です。



※ GLOOBE WebViewer をご利用いただくには 3D カタログ 有料会員の契約が必要です。



※ 現場ナビ3D鉄筋は、株式会社構造ソフトが提供する配筋設計ソフト（登録商標）です。
現場ナビ 3D 鉄筋において、ST-Bridge 形式で出力されたファイルの読み込みに対応しました。



躯体強化（フカシ）

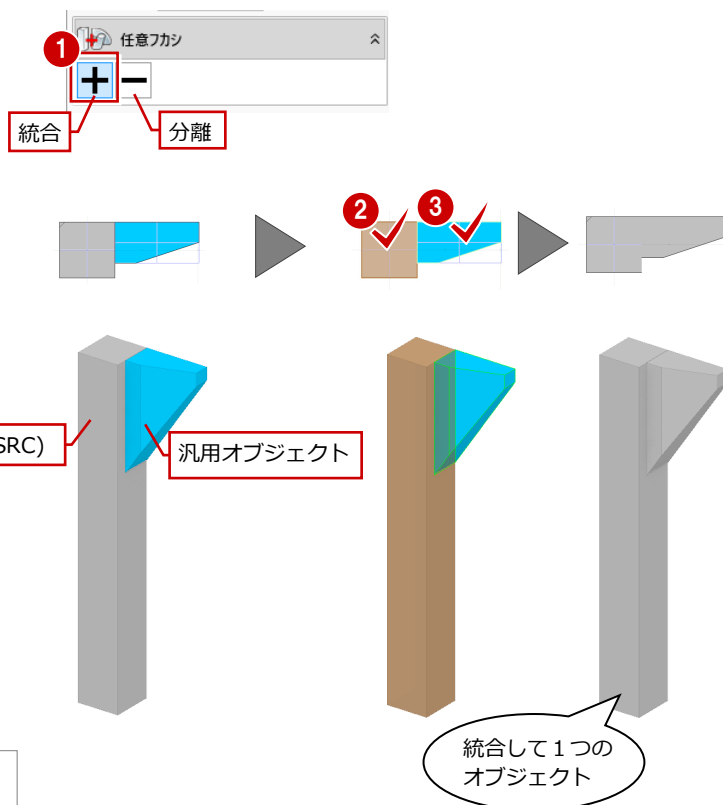
汎用オブジェクトで作成した立体を、柱・壁・梁・スラブのフカシとして設定できるようになりました。複雑な形状でも正確な躯体モデルを作成できます。

また、「分離」を選択することで、統合したフカシを汎用オブジェクトに戻すことも可能です。



統合後の任意フカシ

- ・「概算数量」の「フカシ体積」に集計されます。
- ・「資材集計」では、コンクリートとして集計されます。
- ・「型枠工事」にも反映されます。



立上り打設の対応

柱・躯体壁・パラペット・防水アゴのプロパティに「立上り打設」設定を追加しました。これにより、立上り部を下階の躯体と同時に打設する現場の施工方法を設計に反映できるようになります。

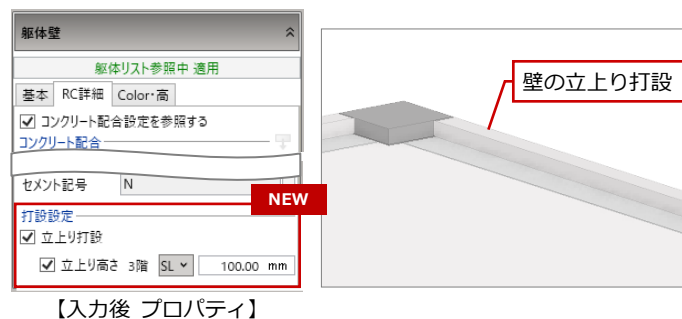


「立上り打設」にチェックを入れた場合

- ・「資材集計」「工程計画」に反映されます。
- ・「オブジェクトリスト」では入力階に表示されます。
- ・「型枠工事」の型枠の配置にも反映されます。



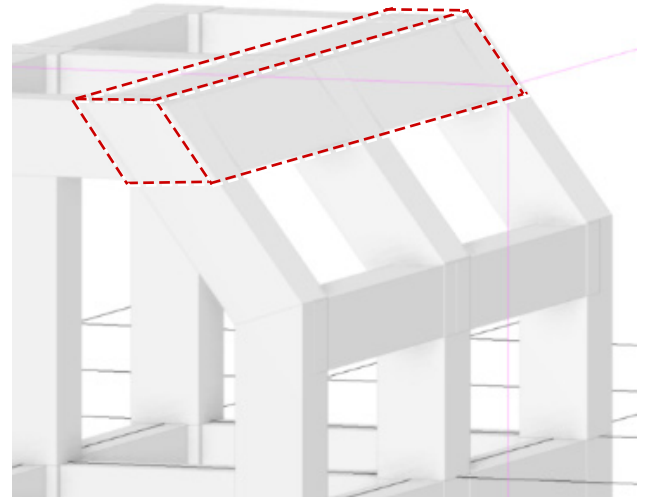
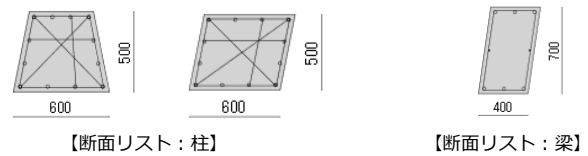
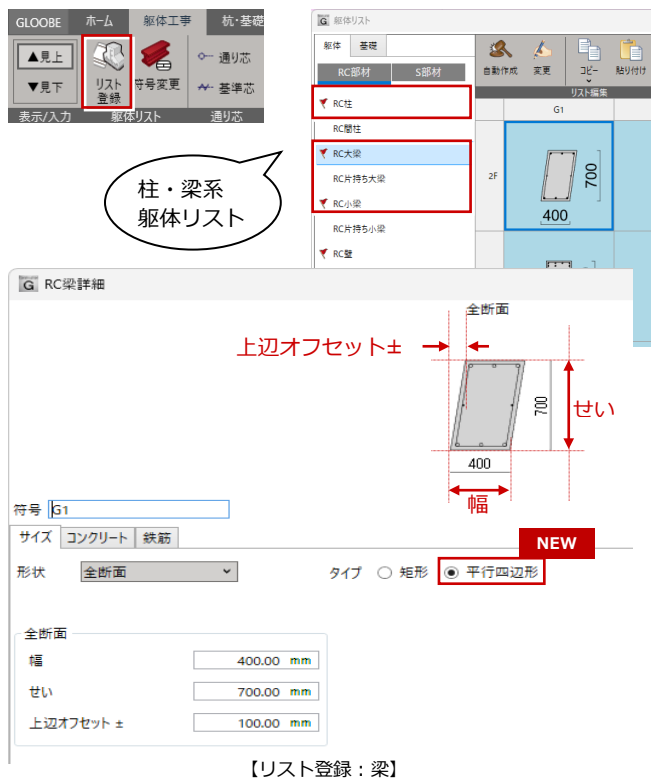
【型枠工事：型枠集計】



【入力後 プロパティ】

異形断面への対応

柱・梁の断面形状として、平行四辺形や台形が
入力できます。敷地形状や斜線に合わせて変形
した建物の躯体がモデリング可能になります。



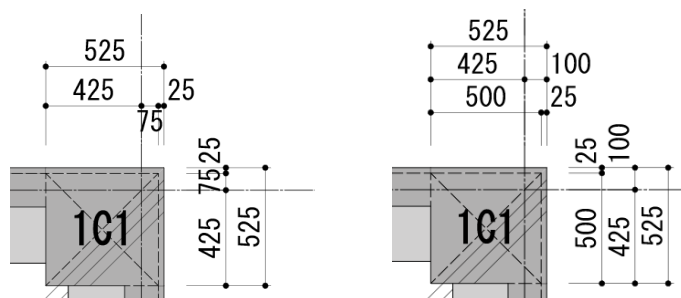
梁リスト改良

梁のリスト登録で、上下2段、3段の主筋変更
に対応しました。より現場に即した施工設計が
可能になります。



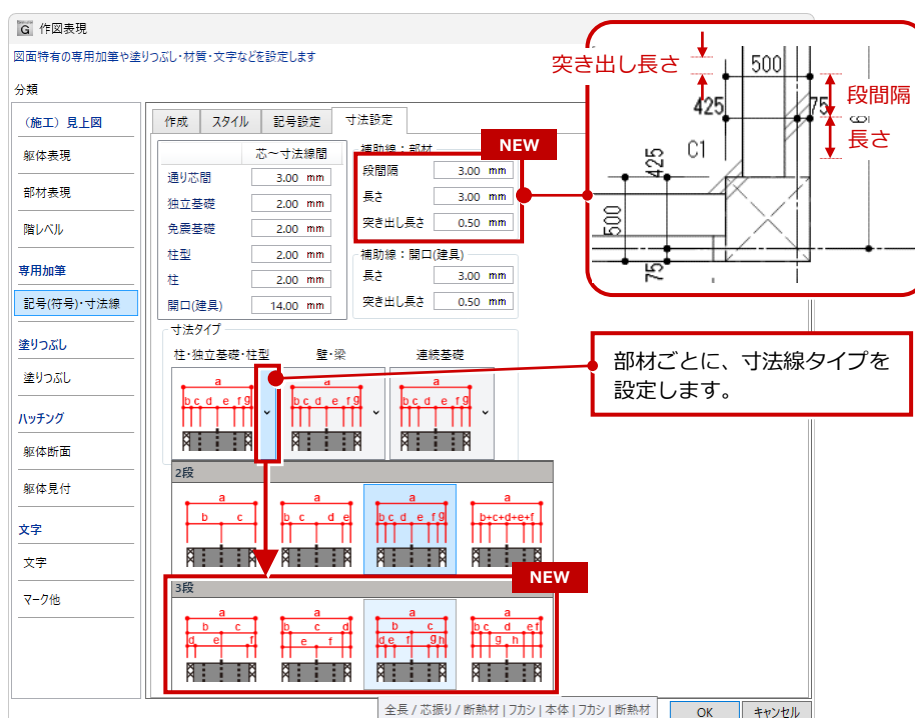
躯体寸法のタイプ拡充

躯体寸法において3段の表現に対応しました。フカシや断熱材などが含まれる場合などに有効となります。
「作図表現」において、段間隔の設定もおこなえます。(複数段の場合は等間隔)



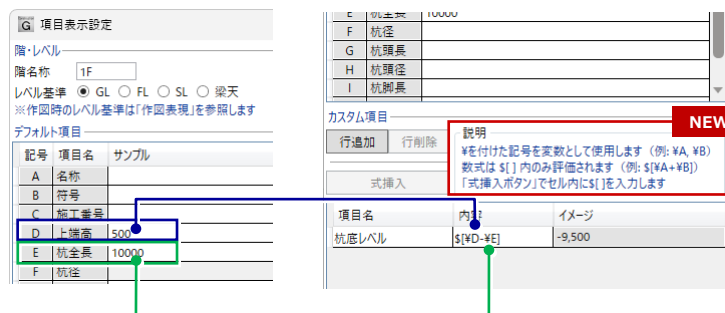
【従来は2段まで】

【3段まで設定可能】

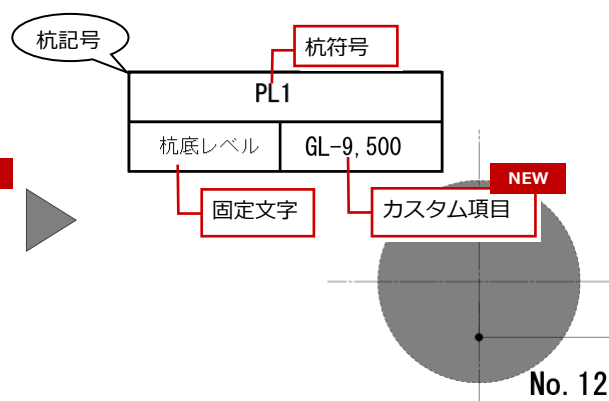


躯体図記号表現の強化

寸法・レベル値の計算機能を追加しました。従来では自動処理できなかった記号に対応しました。計算ミスや記入ミスによる不整合を防ぎます。



【例：杭底レベルについてのカスタム項目】



No. 12

※ カスタム項目の詳細な利用方法については、プログラムヘルプ『組み合わせたカスタム項目を利用するには』を参照してください。

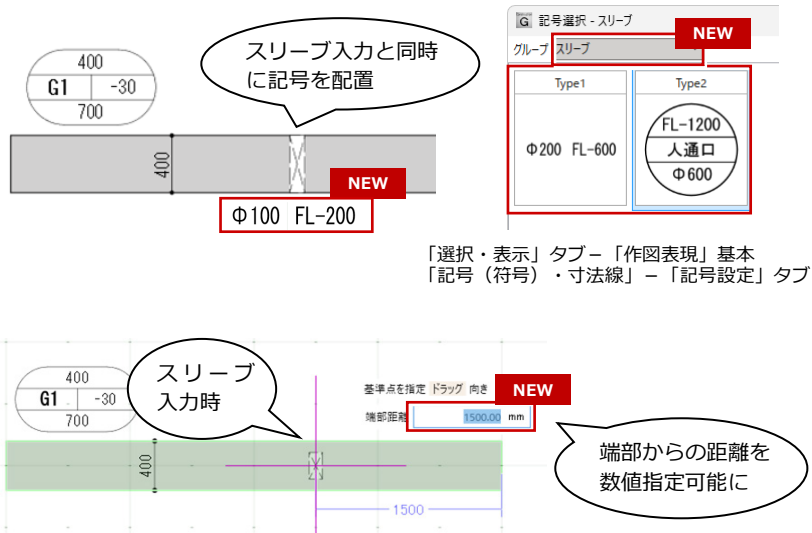
スリーブ記号

スリーブを入力した位置に、スリーブの躯体記号が自動配置されます。

また、スリーブプロパティで「名称」「用途」の項目が設定できるように拡張しました。

配管用途や人通口用途などの情報を登録して記号として表現が可能になりました。

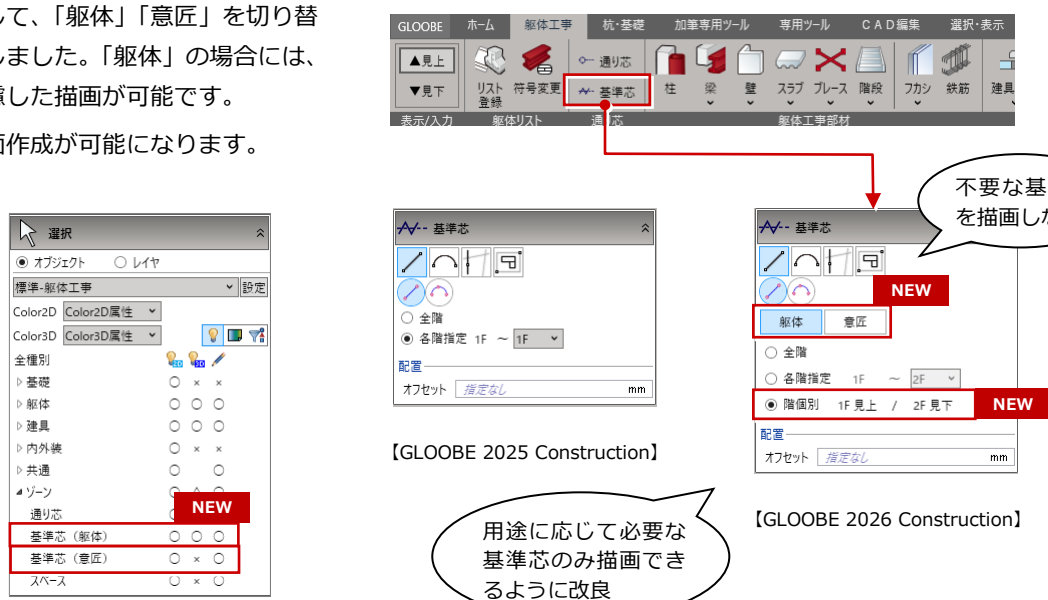
図面作成の手間や、記入漏れを防ぎます。



基準芯の切り替え

基準芯の種別として、「躯体」「意匠」を切り替えられるようにしました。「躯体」の場合には、見上・見下を考慮した描画が可能です。

用途に応じた図面作成が可能になります。

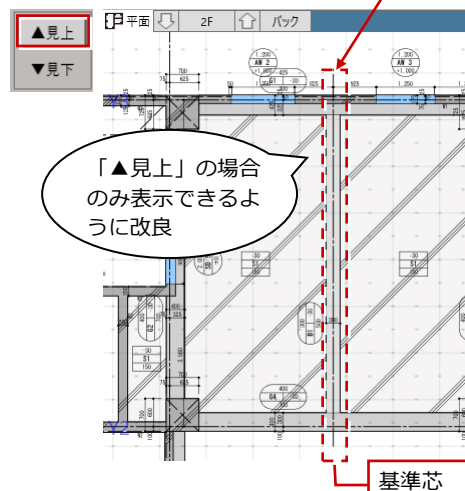


▲見上で基準芯を描画し、▼見下で基準芯を描画しないケース



【基準芯 プロパティ】

「▲見上」だけ描画するように設定



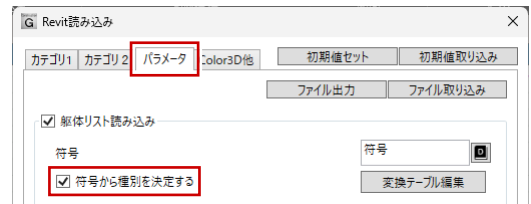
Revit 読み込みでの杭表現改良

Revit 読み込み時に、杭のパラメーターを復元できるようになりました。
Revit では独立基礎と杭の判別がつかないため、以下のどちらかの場合に杭と判別して読み込みます。

- ・読み込み時に「符号から種別を決定する」を ON にする。
- ・プロパティ OmniClass 番号が 23.25.05.11 である。

円形の筒形状以外は、任意形状として読み込みます。

杭全長は「上端高－下端高」で算出します。



【GLOOBE：インポート－Revit 読み込み】

Revit 側の入力

【円形の筒状】

【円形の筒状以外】

杭

躯体リスト参照中 適用

種別	杭
符号	P7
名称	P7
個別番号	0
施工番号	0
形状・形態	ストレート
杭径	800.00 mm
杭全長	5000.00 mm
埋め込み長さ	0.00 mm

任意形状になる

種別	杭
符号	P2
名称	S_P2
個別番号	0
施工番号	0
形状・形態	ストレート
杭径	400.00 mm
杭全長	16000.00 mm
埋め込み長さ	0.00 mm

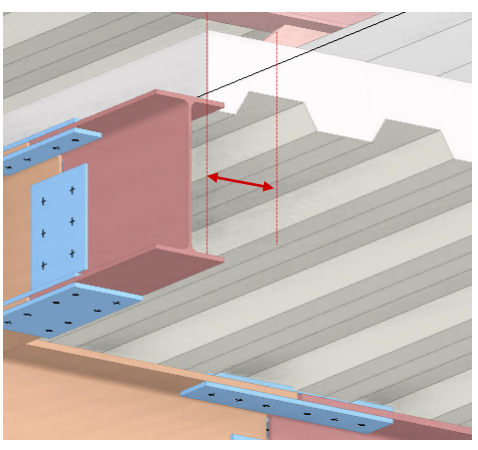
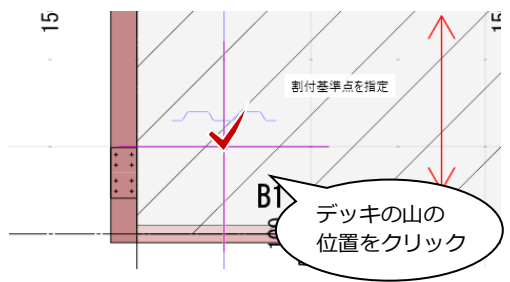
円形の筒状の場合は「基礎」の「杭」にリスト登録されます。

【リスト登録】

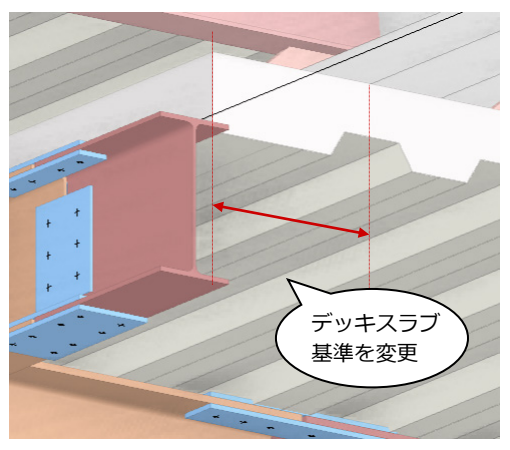
円形の筒状以外はリスト登録されません。

デッキスラブ割付

デッキプレートの割付・端部コンクリートに対応しました。躯体の納まり検査ができます。



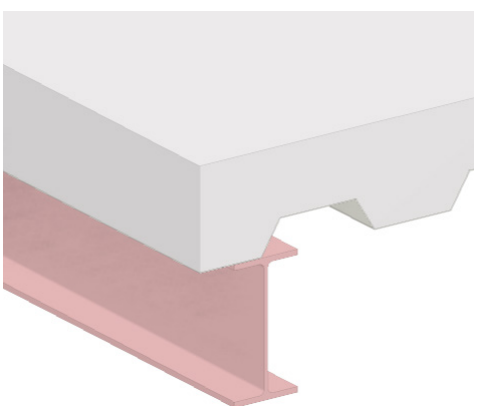
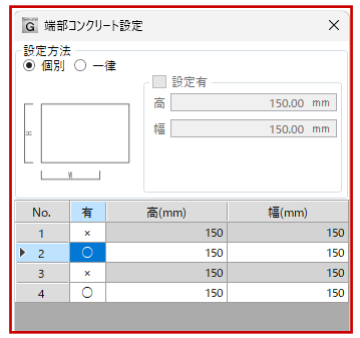
【 基準 変更前 】



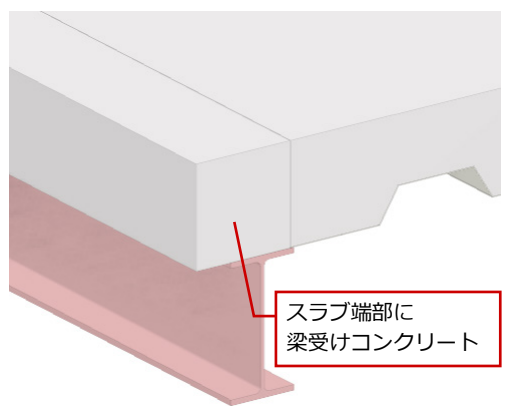
【 基準 変更後 】



【デッキスラブのプロパティ】



【 端部コンクリート 設定前 】

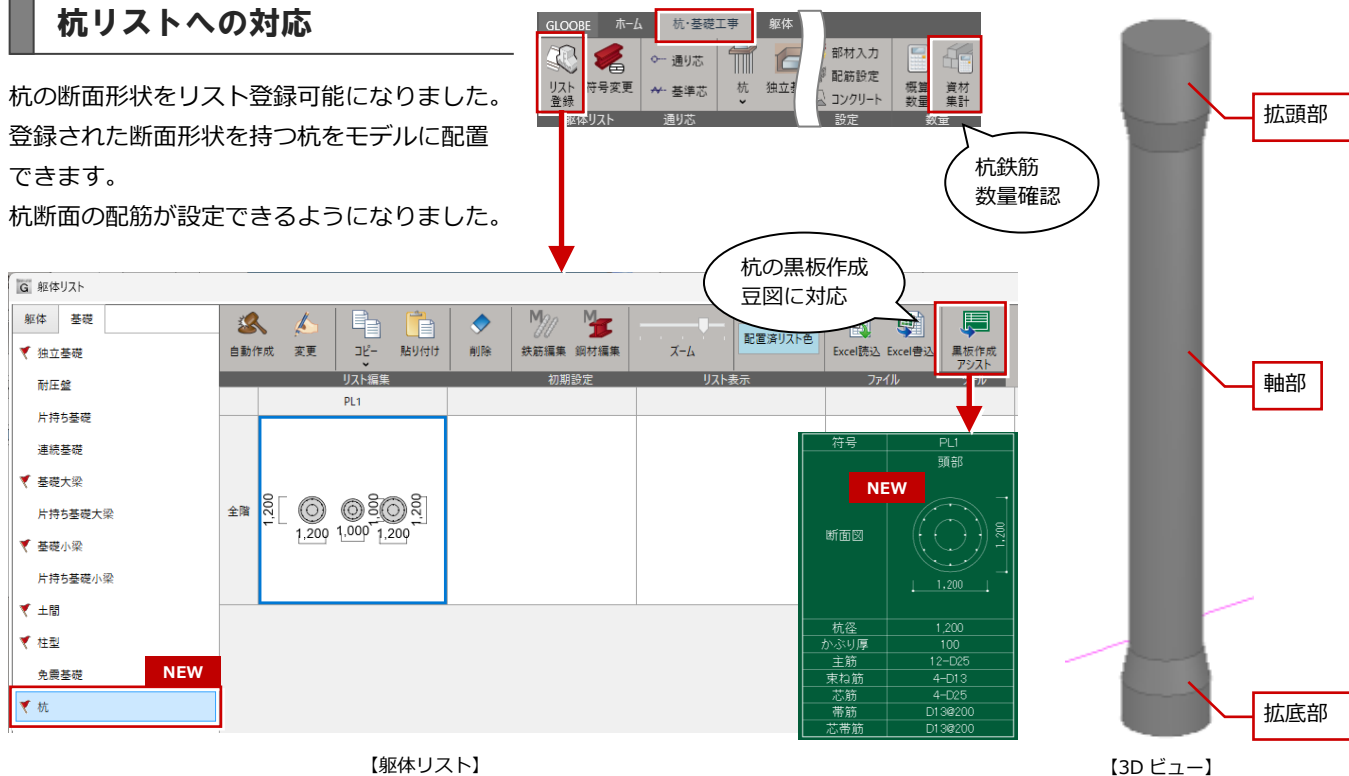


【 端部コンクリート 設定後 】

杭・基礎工事

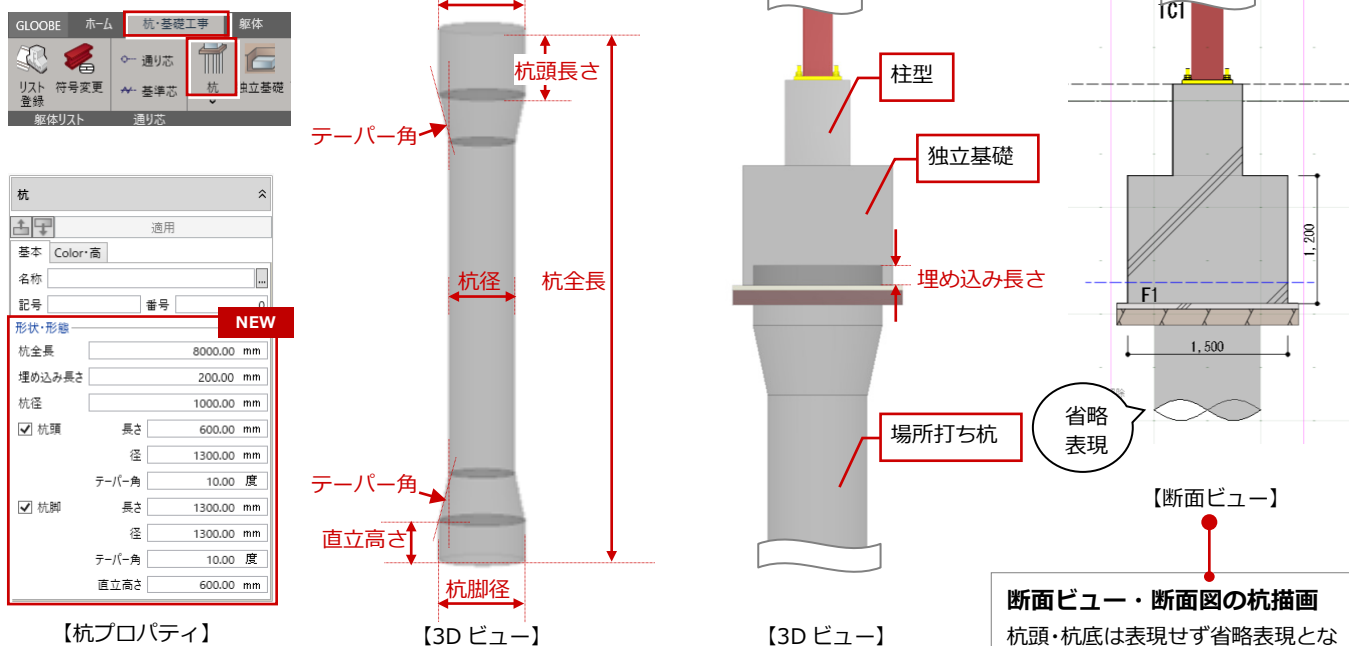
杭リストへの対応

杭の断面形状をリスト登録可能になりました。
登録された断面形状を持つ杭をモデルに配置
できます。
杭断面の配筋が設定できるようになりました。



杭の立体形状改良

場所打ち杭の杭頭・杭脚形状が再現できるようになりました。プロパティで「テーパ角」「直立高さ」の設定に対応し、詳細な表現が可能になりました。



※ 杭脚の長さは、立体に反映されません。鉄筋数量算出専用のプロパティ項目です。

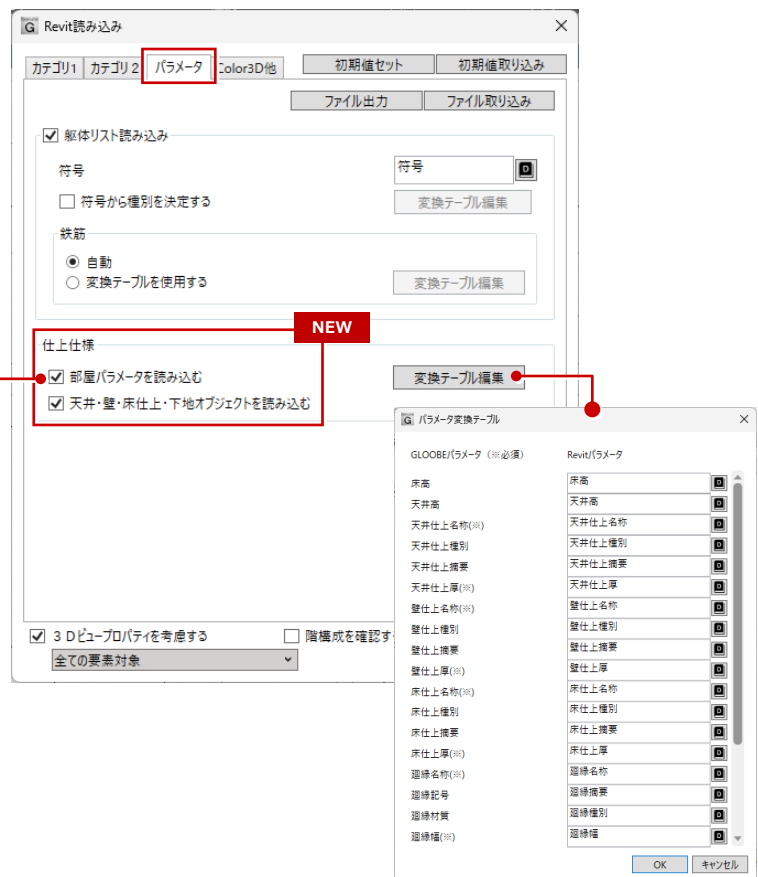
施工詳細

Revit 読み込みでの仕上仕様対応

Revit モデルの部屋の仕上げ情報をもとに、GLOOBE の仕上仕様計画を作成できるようになりました。

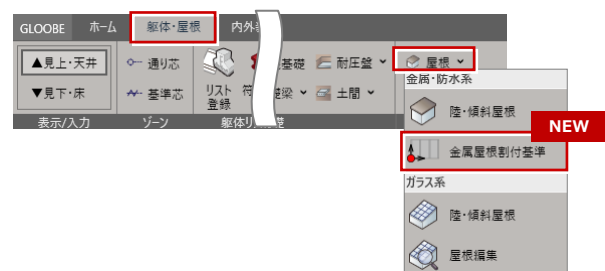
Revit からインポートしたモデルに対して、仕上仕様計画が可能です。

各仕上げの名称などのプロパティを Revit のパラメータ名から読み込む場合は、この項目を ON にし、「変換テーブル編集」をクリックして設定します。

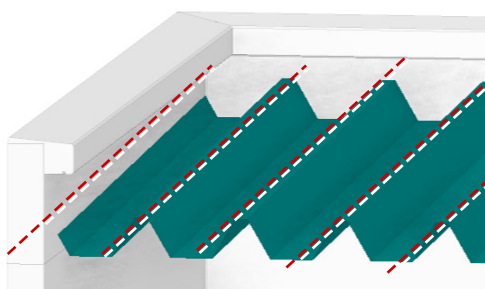


折板・瓦棒屋根割付の改良

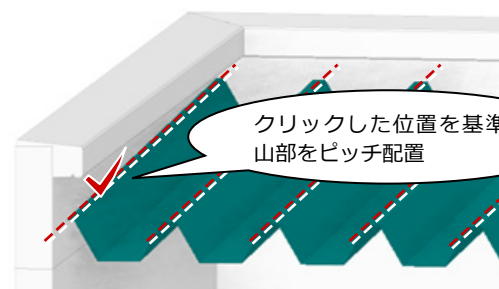
デッキスラブ同様に、折板屋根や金属瓦棒屋根についても、割付基準の変更に対応しました。



施工詳細ワークフロー「躯体・屋根」
「屋根」メニュー「金属屋根割付基準」



【 基準 変更前 】



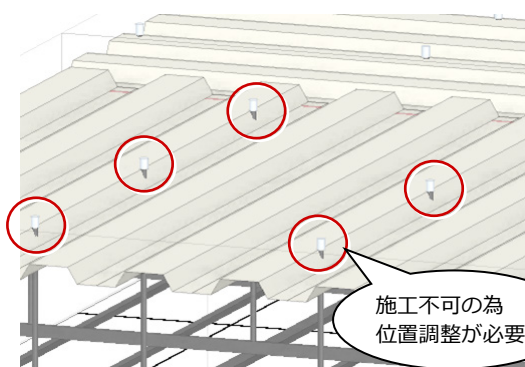
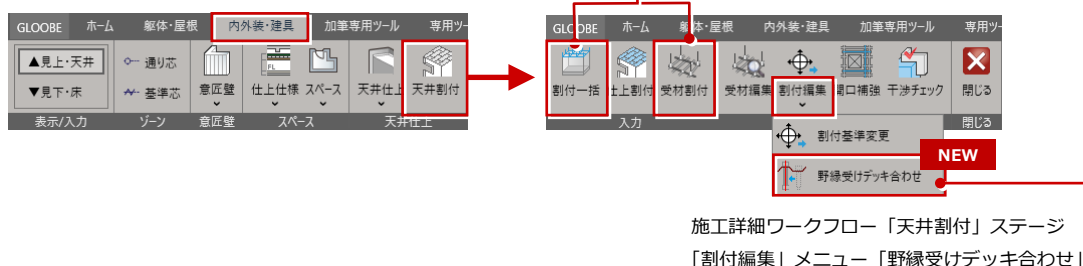
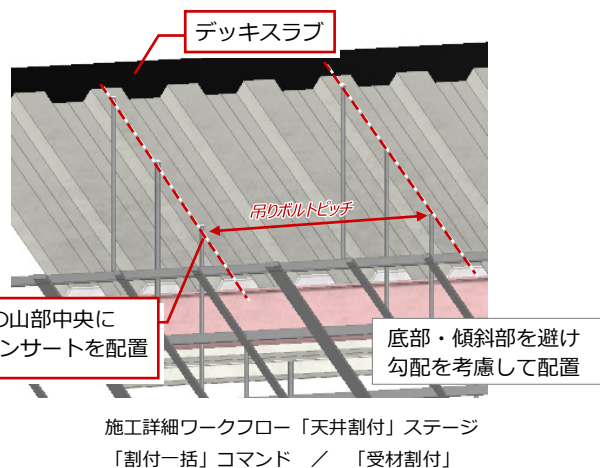
【 基準 変更後 】

天井割付の改良

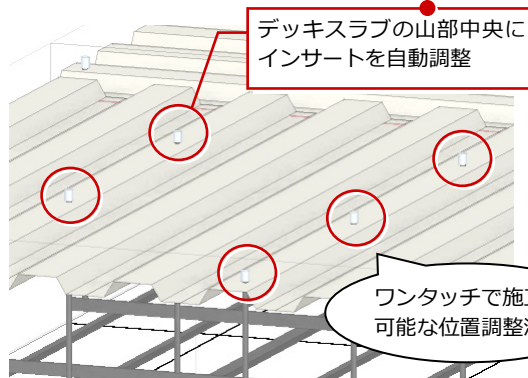
天井下地材の割付時に、デッキプレートの割付に沿って配置可能になりました。

吊りボルトを配置する部材がデッキスラブの場合、吊りボルトとインサートはデッキ山部中央にピッチ配置（調整）できるように拡張しました。

また、吊りボルトを配置するデッキスラブが勾配していた場合、勾配を参照して吊りボルトとインサートを配置（調整）します。

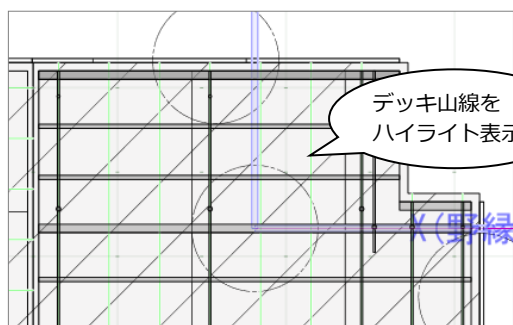


【コマンド実行前】

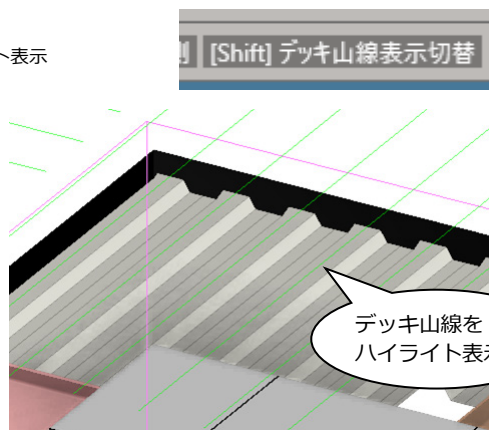


【コマンド実行後】

NEW 施工詳細ワークフロー「天井割付」ステージ
「受材割付」実行時、Shift キー押下でデッキ山線をハイライト表示



【平面ビュー】

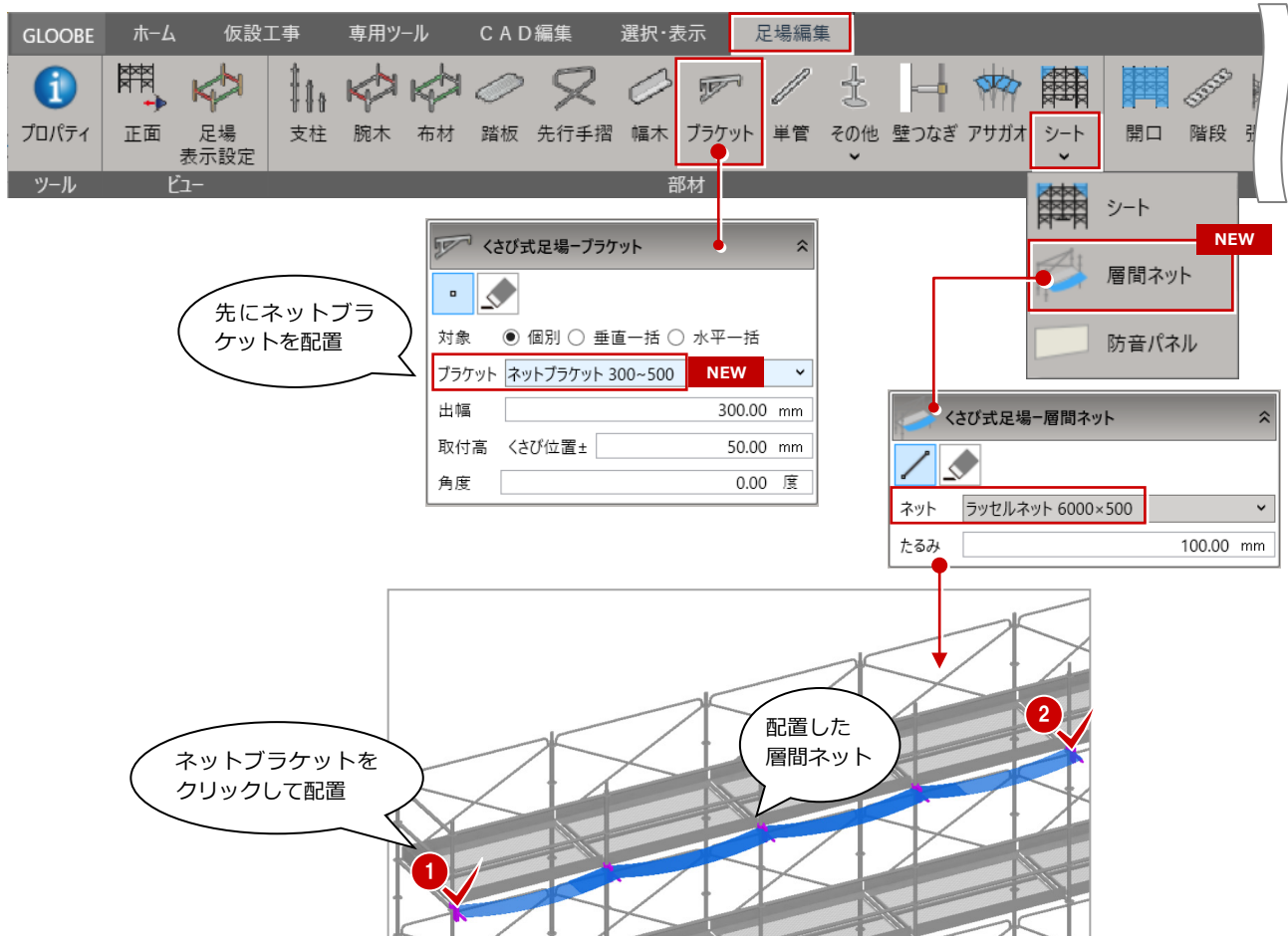


【3D ビュー】

仮設工事

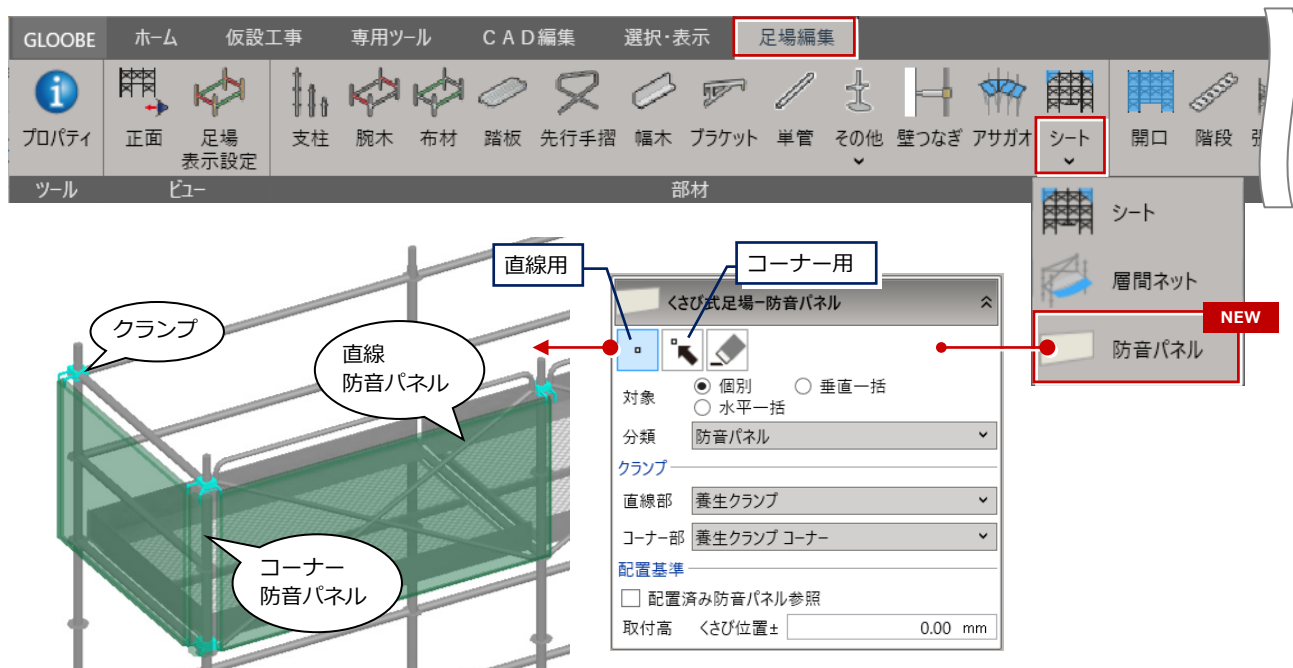
層間ネットの追加

層間ネットの入力に対応しました。層間ネット入力の際には、先にネットブラケットの配置が必要です。



防音パネルの追加

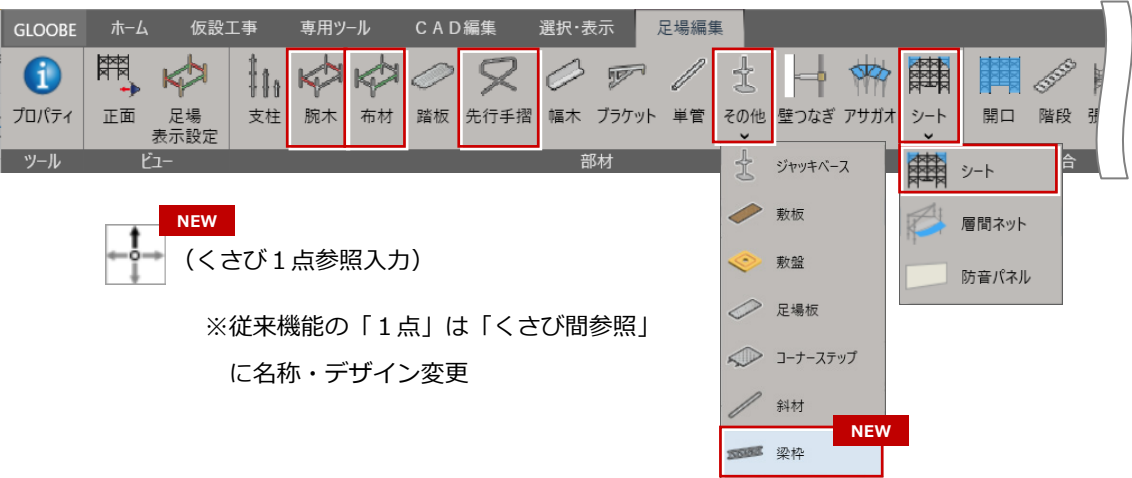
防音パネル、防音パネルクランプの入力に対応しました。



くさび受け参照入力の対応

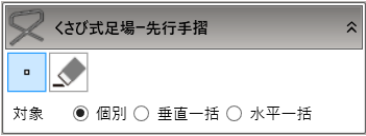
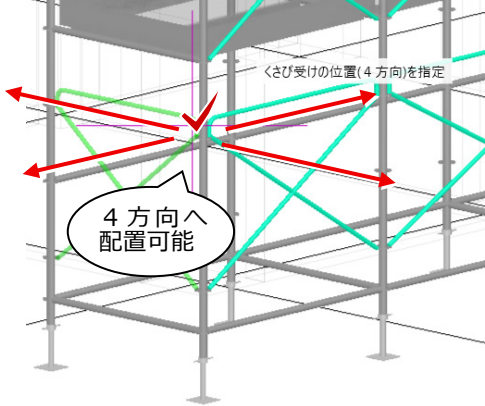
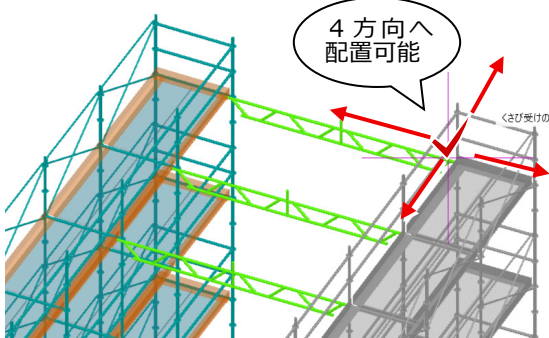
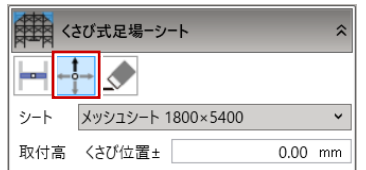
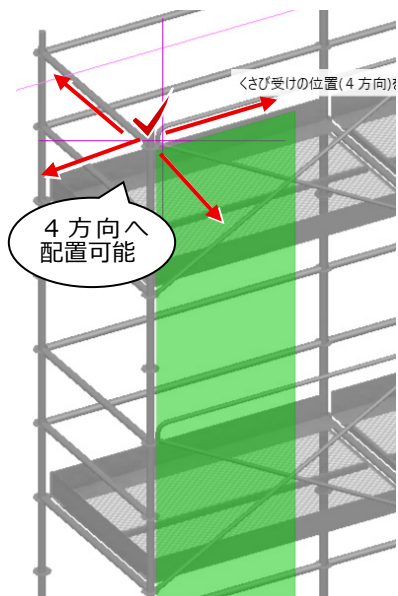
くさび受けを中心に 4 方向への配置に対応しました。(一部制限有：腕木は梁間方向、布材は桁方向)

対応した部材は、くさび式足場用の「腕木」「布材」「先行手摺」「梁枠」「シート」です。



※従来機能の「1点」は「くさび間参照」に名称・デザイン変更

GLOOBE2025	GLOOBE2026	拡張概要（くさび式）
腕木（くさび式）		梁間方向へ配置することができ、隣接足場との接続、敷地状況等に応じた部材配置をしやすくなります。
布材（くさび式）		桁方向へ配置することができ、隣接足場との接続、敷地状況等に応じた部材配置をしやすくなります。

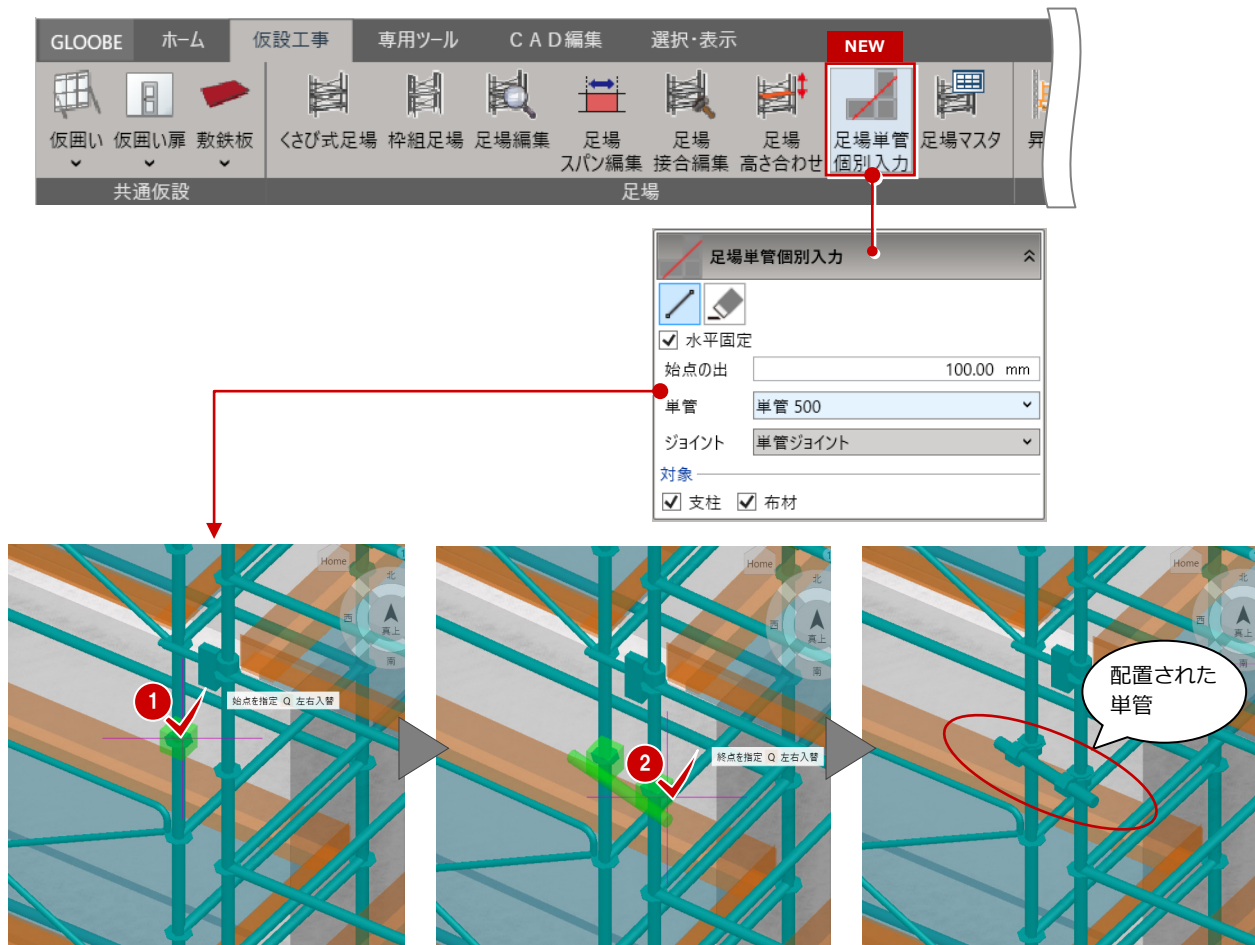
GLOOBE2025	GLOOBE2026	拡張概要（くさび式）
先行手摺（くさび式）  対象 ☒ 個別 ☐ 垂直一括 ☐ 水平一括	 先行手摺 先行手摺 1800	4方向へ配置することができ、梁間方向の配置に利用することができます。  ※“棚足場”の作成手順はヘルプキーワードより参照
梁枠（くさび式） 無し	 梁枠 梁枠 5400	4方向へ配置することができ、他足場との接続に利用することができます。 
シート（くさび式）  対象 ☒ 個別 ☐ 垂直一括 ☐ 水平一括 分類 メッシュシート 高さ 5100 mm 取付高 くさび位置± 0.00 mm	 シート メッシュシート 1800×5400 取付高 くさび位置± 0.00 mm	4方向へ配置することができ、躯体種別や躯体形状、敷地状況等に応じた配置をしやすくなります。 

※“他足場を同時表示する”には、選択パネルで「編集対象のみ Color を使用する」を OFF にします。（ヘルプ参照）

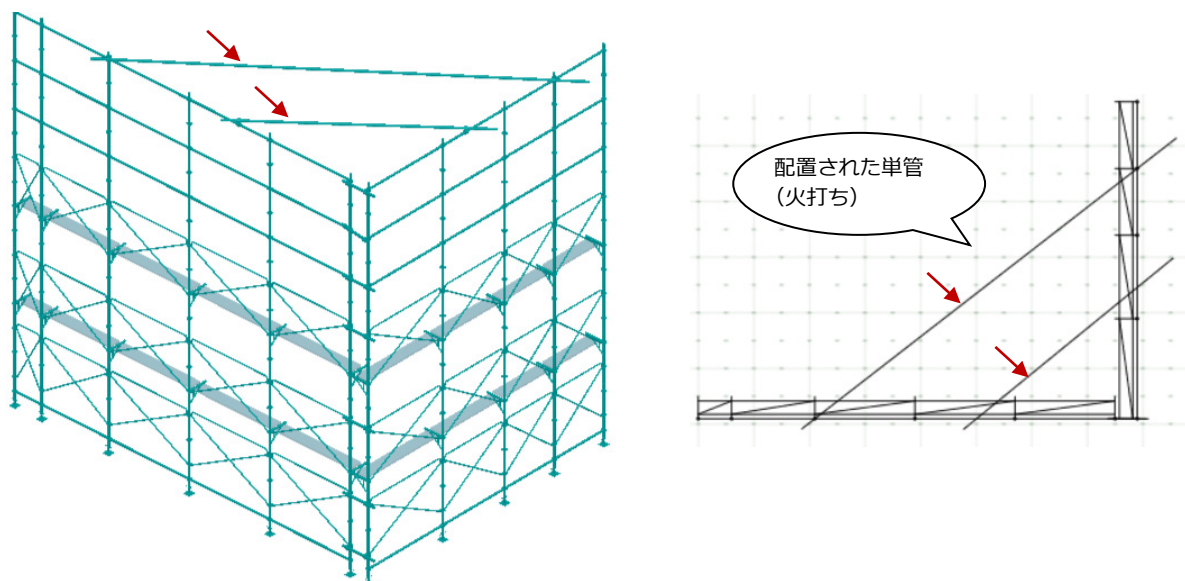
単管の単独入力

足場間をつなぐ単管入力に対応しました。

L字に接合した足場どうしのすき間を単管で接合したり、火打ち状に補強したりできるようになります。



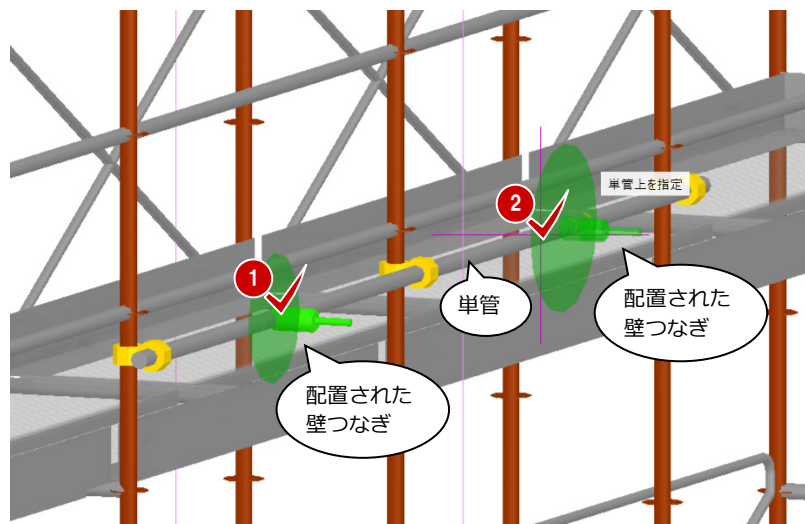
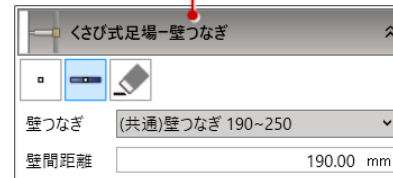
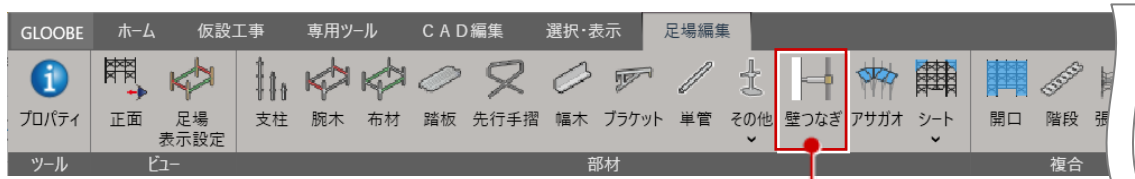
火打ち：支柱を上方に追加して隣接した足場を単管でつなぐことが可能です。



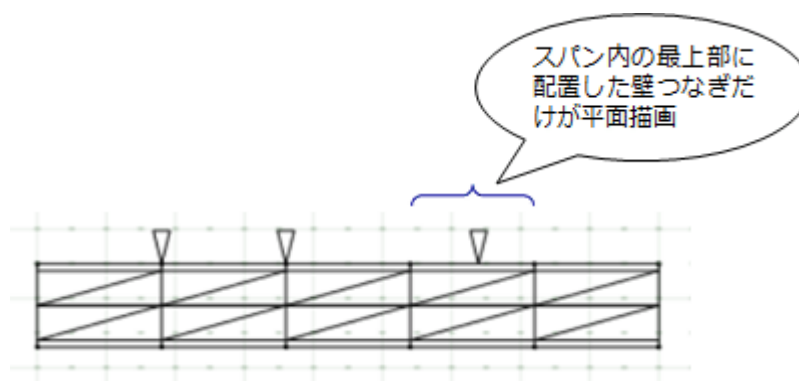
壁つなぎの単管配置

壁つなぎを単管に設置できるように対応しました。

鉄骨造の柱・梁の位置に支柱がない場合にも、壁つなぎを設置できるようになります。

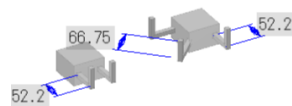
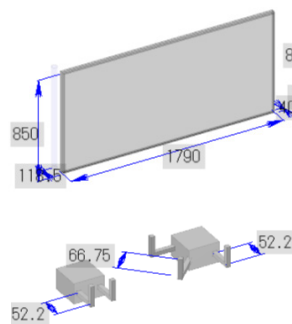
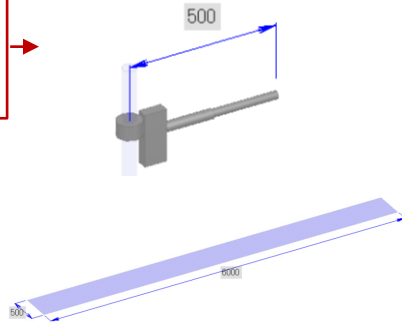
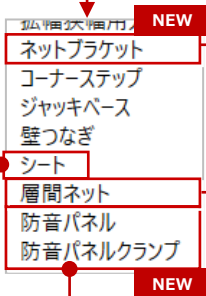
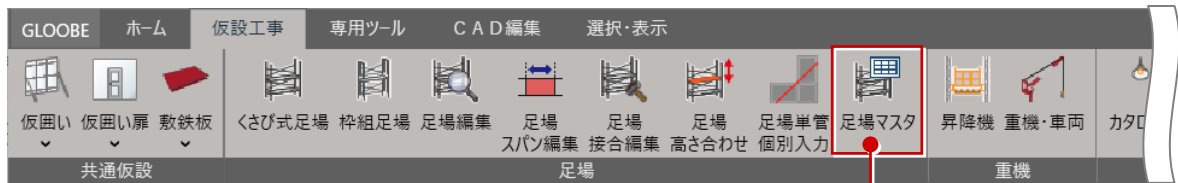


また、スパン間（建地間）に複数の単管上壁つなぎがある場合、最上部に配置されている壁つなぎのみ平面表現（図面作成含）します。

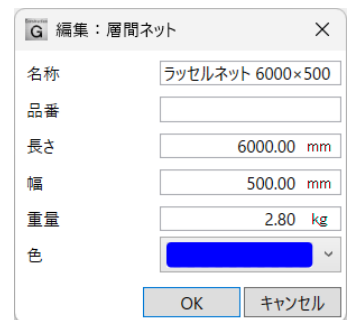
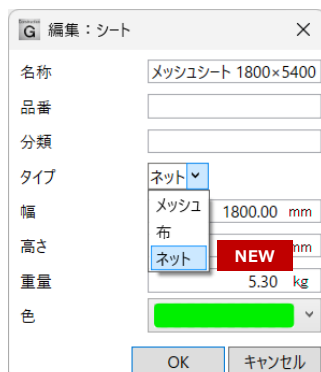


足場マスタの拡張

層間ネット、ネットブラケット、防音パネル、防音パネルクランプを追加しました。



シートタイプに「ネット」を追加しました。

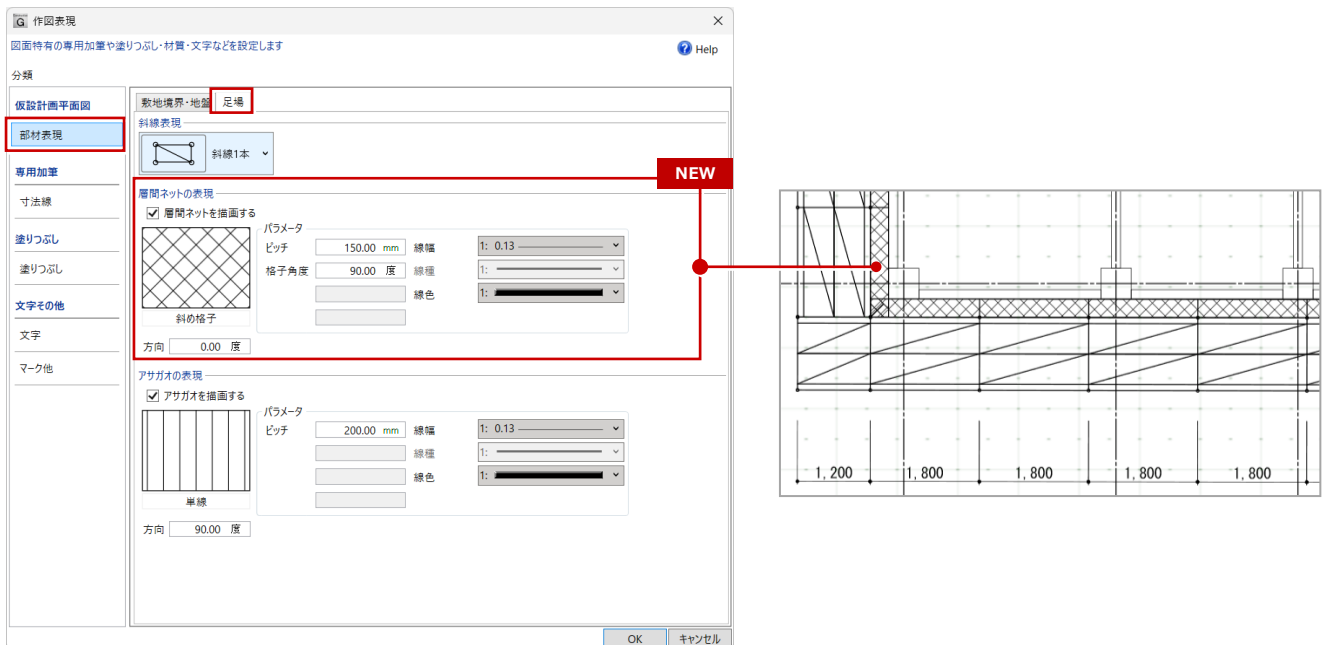


作図表現の対応

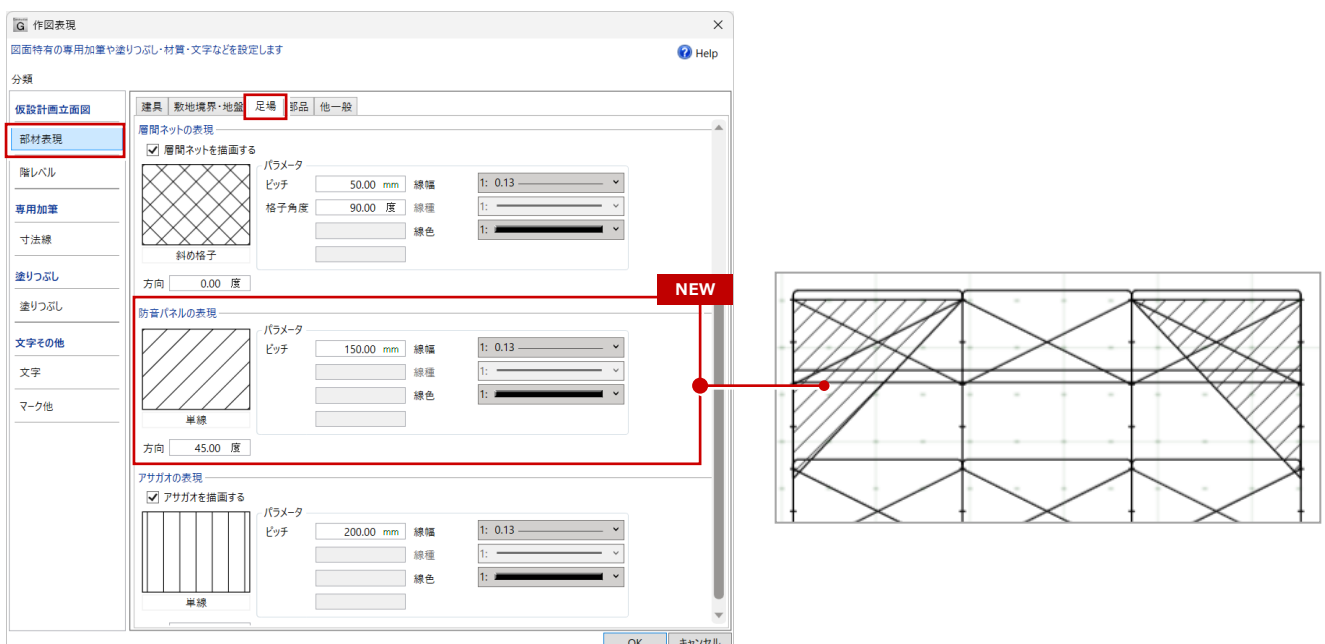
層間ネット、防音パネルのハッチングに対応しました。



■ 仮設計画平面図＞部材表現（層間ネット）＞足場



■ 仮設計画立面図＞部材表現（防音パネル）＞足場



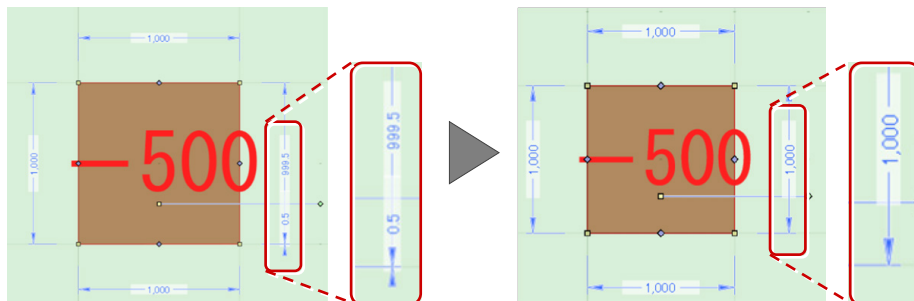
土工事

土工事用地盤の精度向上

掘削・埋め戻し形状作成の立体精度が向上し、掘削や埋め戻しの穴抜けや塞がりが増減しました。

- 根切り入力時、指定許容誤差以内で頂点座標にずれがある場合、補正をする。

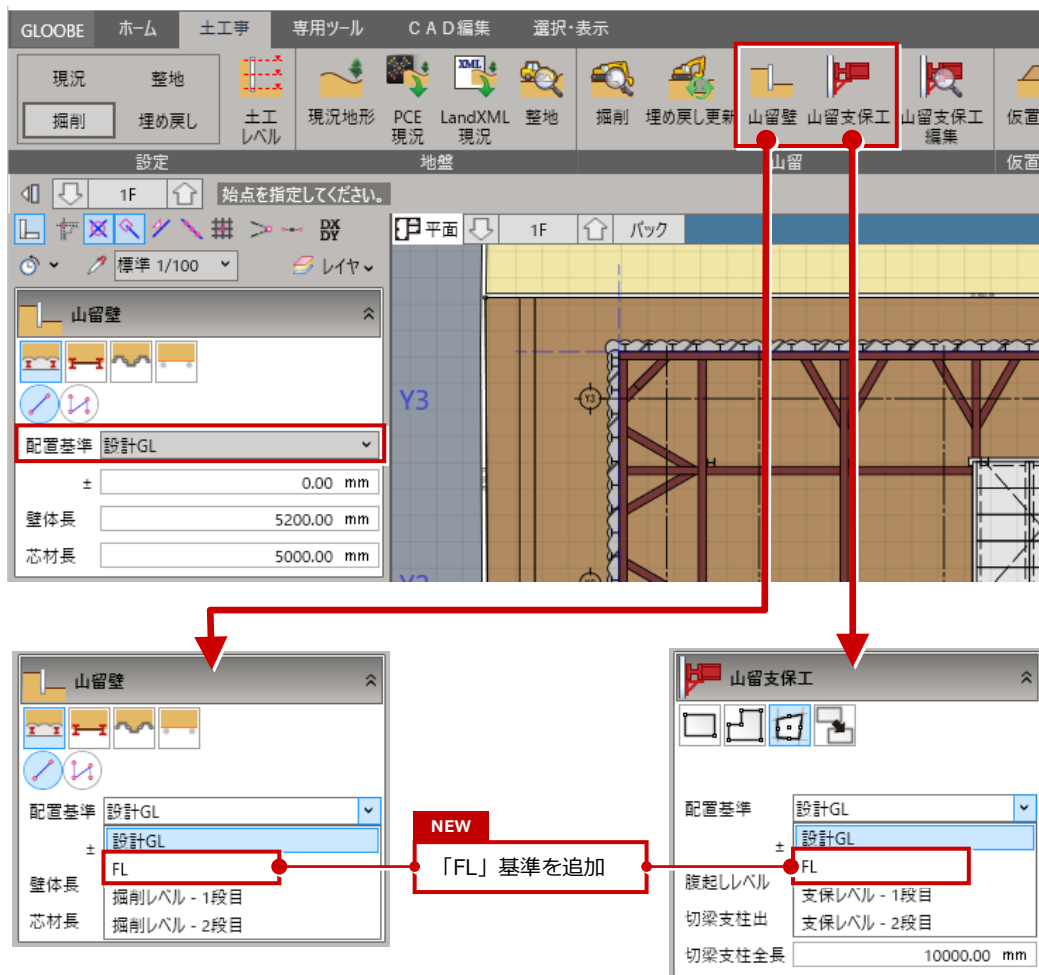
【補正例】



- 埋め戻し形状作成時においては、許容誤差 1.0mm 内で躯体から埋め戻し形状作成用のデータを取得する際に、梁やスラブも含めて補正処理をおこなう。

山留壁・山留支保工の FL 基準入力対応

山留壁や山留支保工の入力において、「FL」配置基準に対応しました。

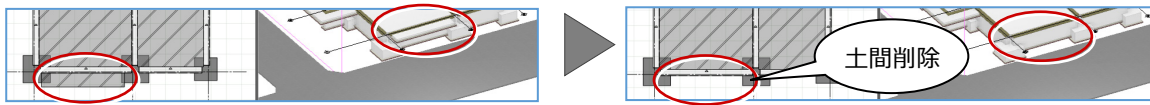


埋め戻し更新への対応

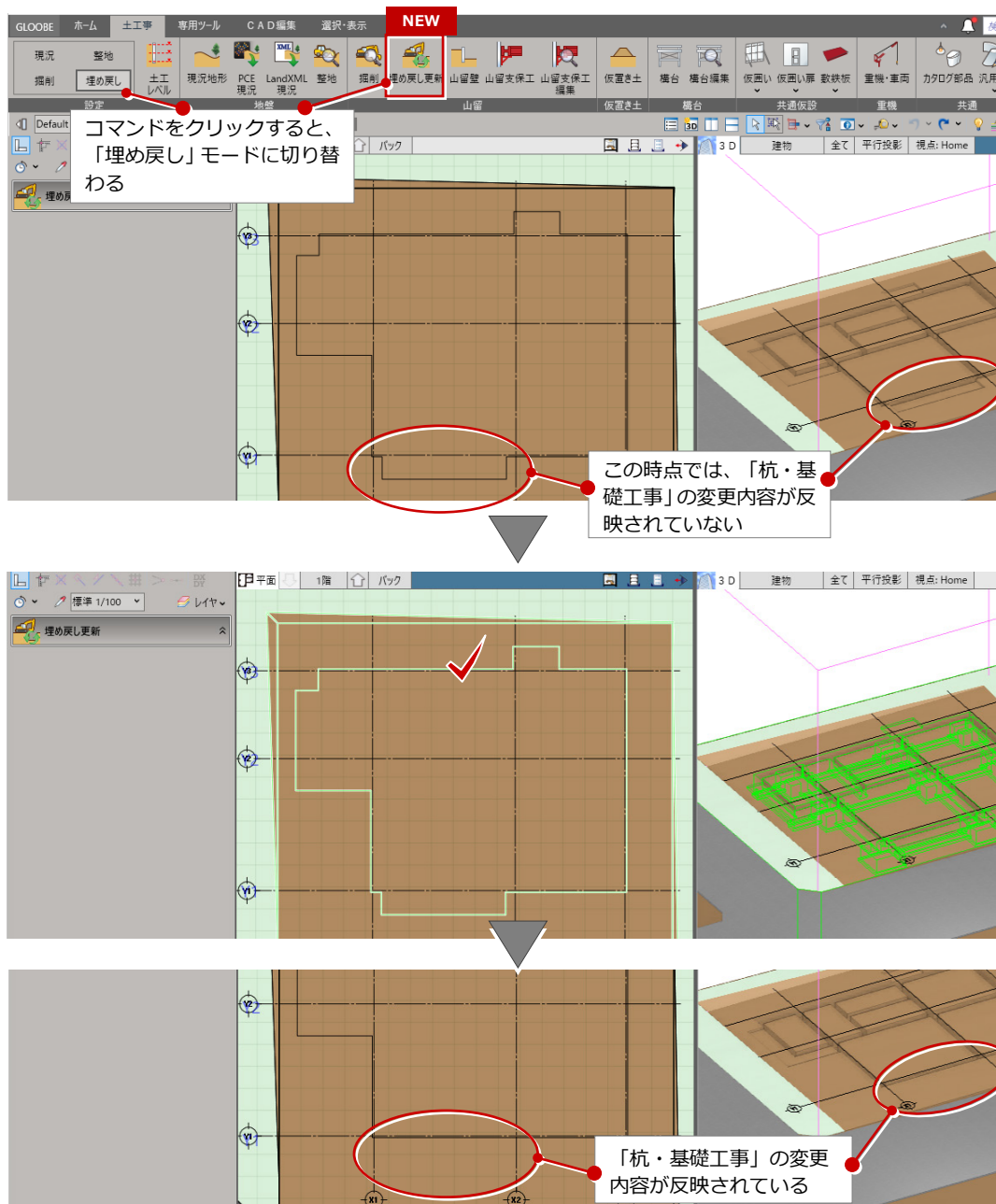
基礎工事などでの変更内容を、埋め戻し形状に反映させるコマンドを新規に追加しました。

【操作例】

※「杭・基礎工事」で削除した土間の部分を、「土工事」の埋め戻し形状に反映させる例で解説します。



「埋め戻し更新」コマンドをクリックし、対象となる土工事用地盤を選択すると、基礎工事などで変更した内容が形状に反映されます。



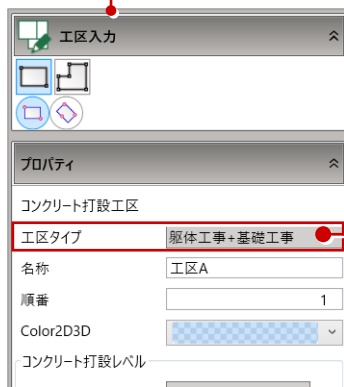
「掘削」の以下のコマンドにおいては、自動的に埋め戻し形状の更新がおこなわれます。

- ・「根切り」における変更。（入力・削除・プロパティ変更）
- ・「根切りクリーン」の完了時。
- ・「法肩・法尻揃え」の完了時。

工程計画

工区タイプの拡張

工区の入力タイプに「躯体工事」「基礎工事」タイプが追加され、基礎と接する最下層において、区別して工区割りをおこなうことができるように対応しました。また、配置済み工区の表示有無の切り替えにも対応しました。

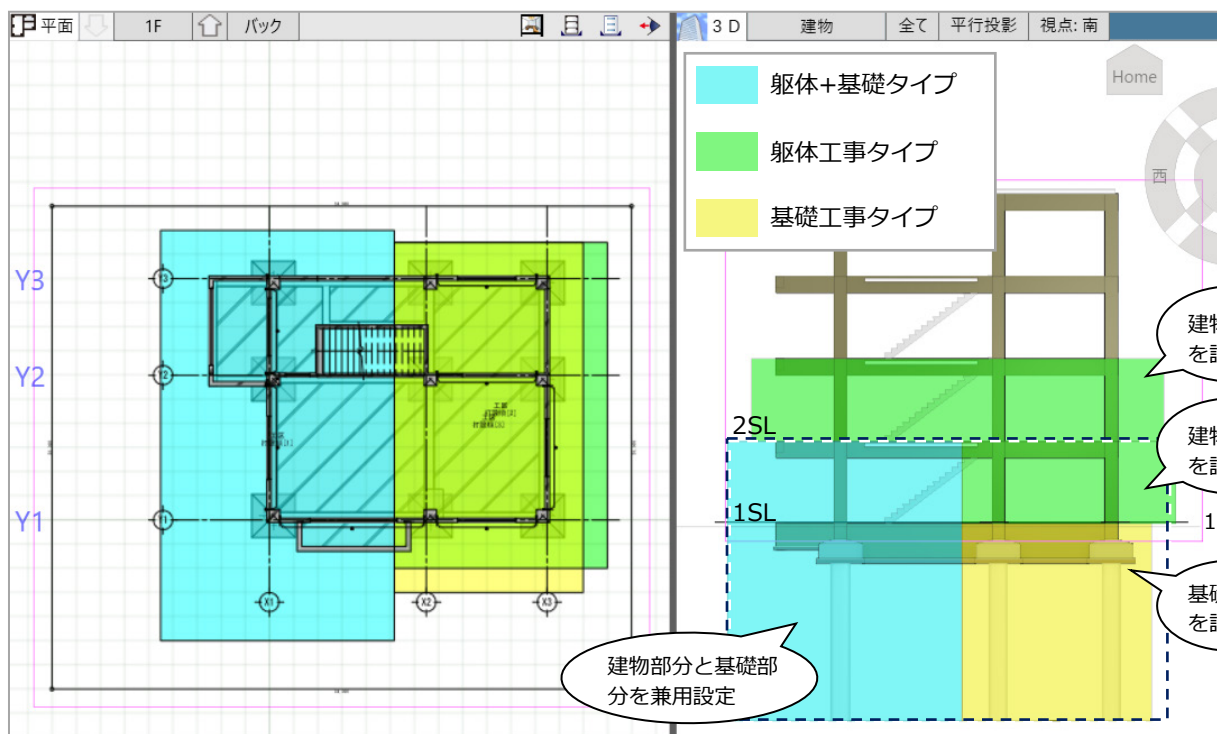


従来タイプ
(2025 工区)

躯体工事+基礎工事
躯体工事
基礎工事

拡張タイプ

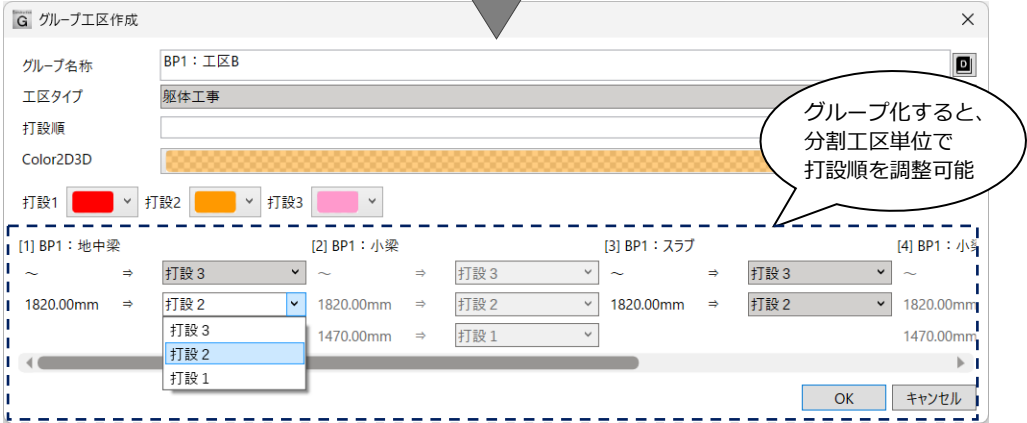
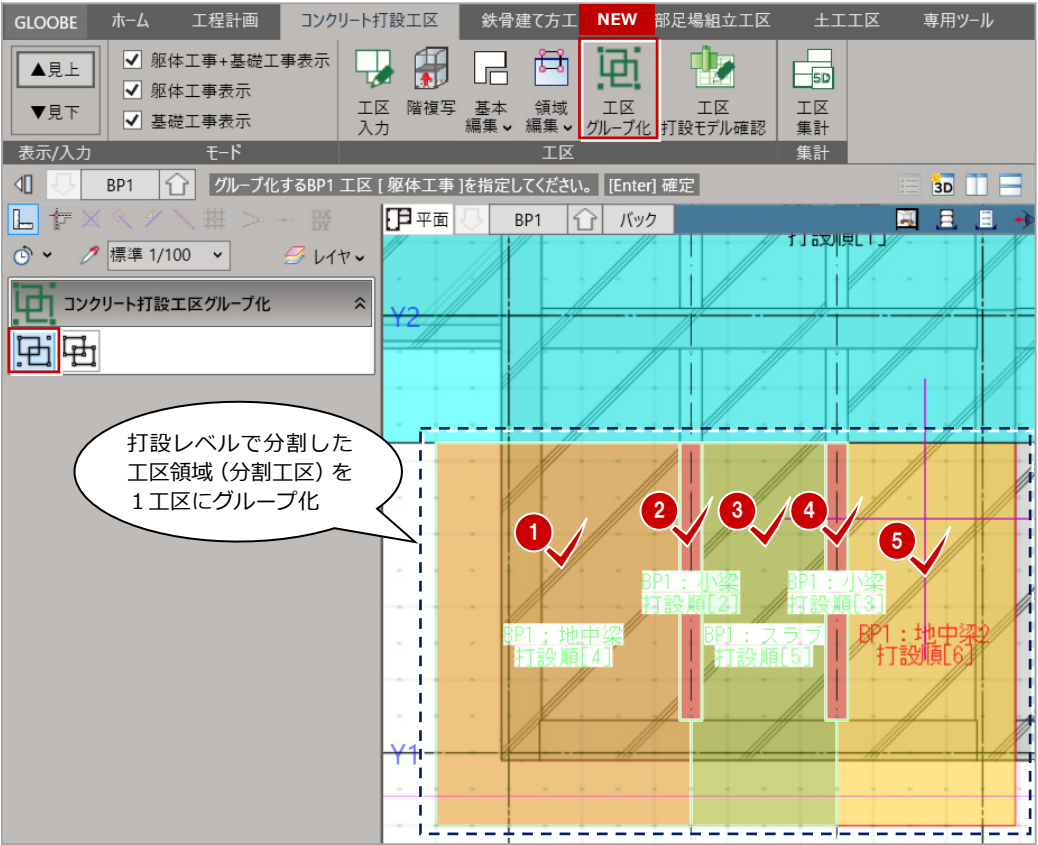
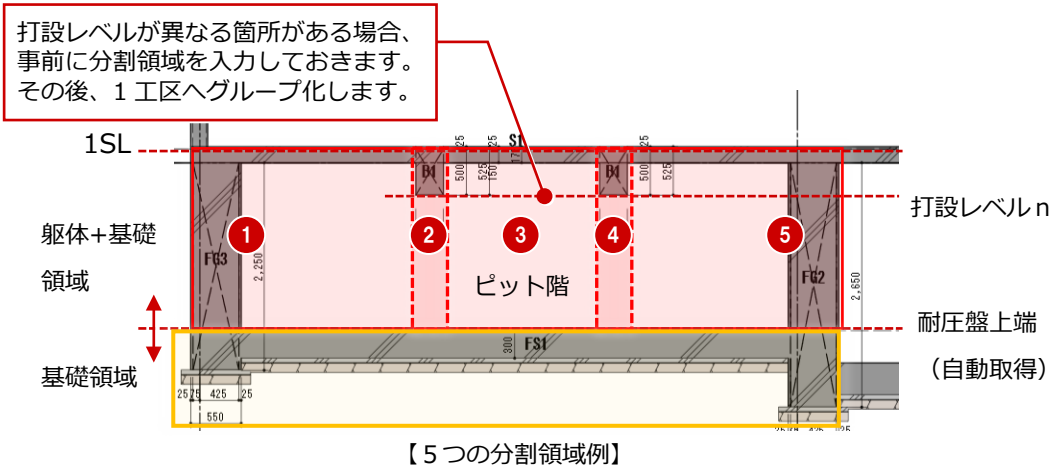
NEW



<各工区入力タイプが網羅する領域の違い：詳細はヘルプ参照>

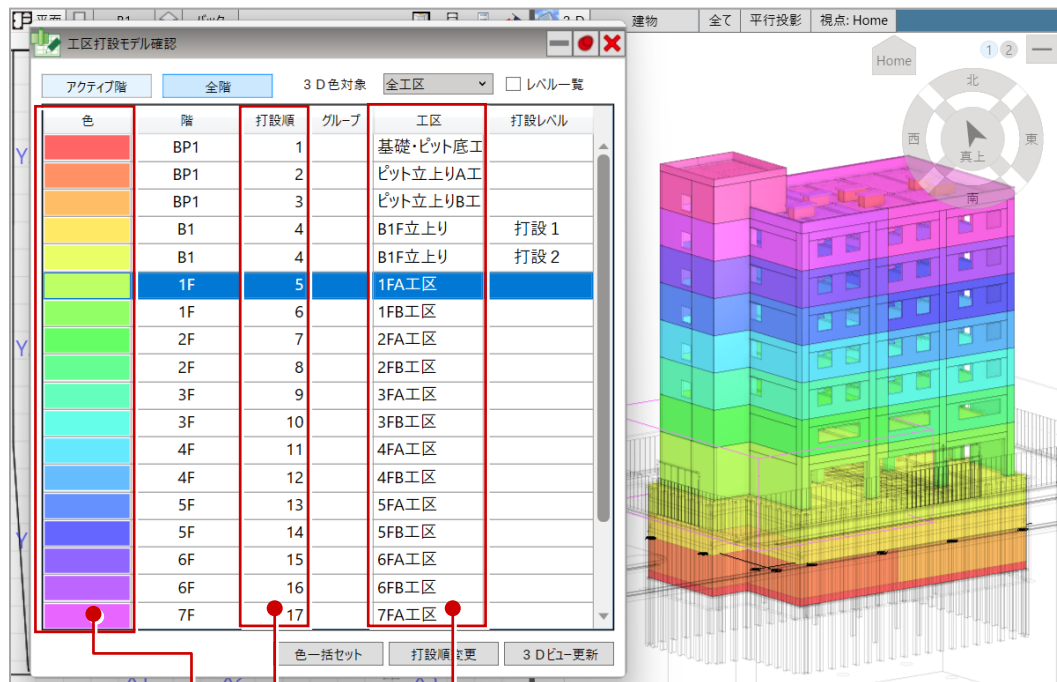
コンクリート打設工区グループ化

打設レベルが異なる領域を同一工区内で調整できるように対応しました。分割領域として打設レベル毎に入力した工区をグループ化して1工区とすることで、次頁の「工区打設モデル確認」で 3D ビューによる対象躯体部の確認や仕上げ面の異なる打設レベルの調整ができるようになります。



コンクリート打設工区打設モデルの確認

全体の工区割り状態や打設レベル・打設順を 3D ビューで色分けされた躯体モデルで確認・調整できるように拡張しました。



建物全体で工区名や打設順、表示色を確認・変更することができます。

また、打設仕上げ面の異なる躯体の打設順を色分けした 3D ビューで確認・調整することができます。

